

第9回みえ県民意識調査の集計結果 ～県民の皆さんの幸福実感を調査しました～

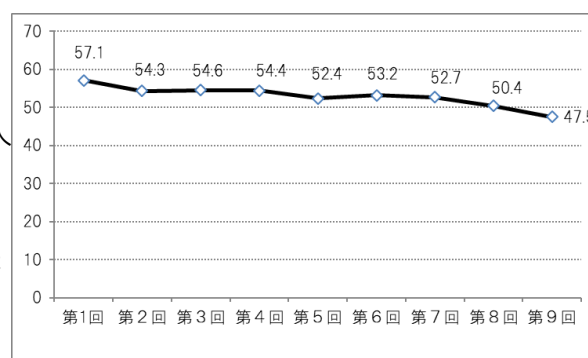
県では、「みえ県民カビジョン」において、「県民力でめざす『幸福実感日本一』の三重」を基本理念として掲げており、県民の皆さんの「幸福実感」を把握し、県政運営に活用するため、一万人の県民の皆さんを対象に毎年「みえ県民意識調査」を実施しています。

今回、令和2年1月から3月にかけて実施した「第9回みえ県民意識調査」の集計結果がまとまりましたので、お知らせします。

I 調査の概要等

- 1 調査期間 令和2年1月～3月
- 2 調査方法 県内に居住する18歳以上の10,000人に対する郵送アンケート
調査票の回収は、記入した調査票の返送又はインターネット上での回答
- 3 有効回答数 4,751人（有効回答率 47.5%）

図表1 有効回答率の推移



4 調査項目

- ・ 幸福感
- ・ 地域や社会の状況についての実感
- ・ 行動計画に関すること
- ・ SDGs、Society 5.0に関すること
- ・ 健康づくりに関すること
- ・ ご家族に関すること

5 その他

第9回みえ県民意識調査の集計結果をまとめた報告書は、5月29日から県ホームページでご覧いただけます。また、令和2年6月中旬に県庁や各県庁舎（地域防災総合事務所、地域活性化局等）に配置する予定です。

[URL](http://www.pref.mie.lg.jp/KIKAKUK/HP/mieishiki/) <http://www.pref.mie.lg.jp/KIKAKUK/HP/mieishiki/> （「みえ意識」で検索）

今後、集計結果をもとに戦略企画部において分析する予定です。

II 集計結果（概要）

1 幸福感

報告書 5～7頁

(1) 日ごろ感じている幸福感

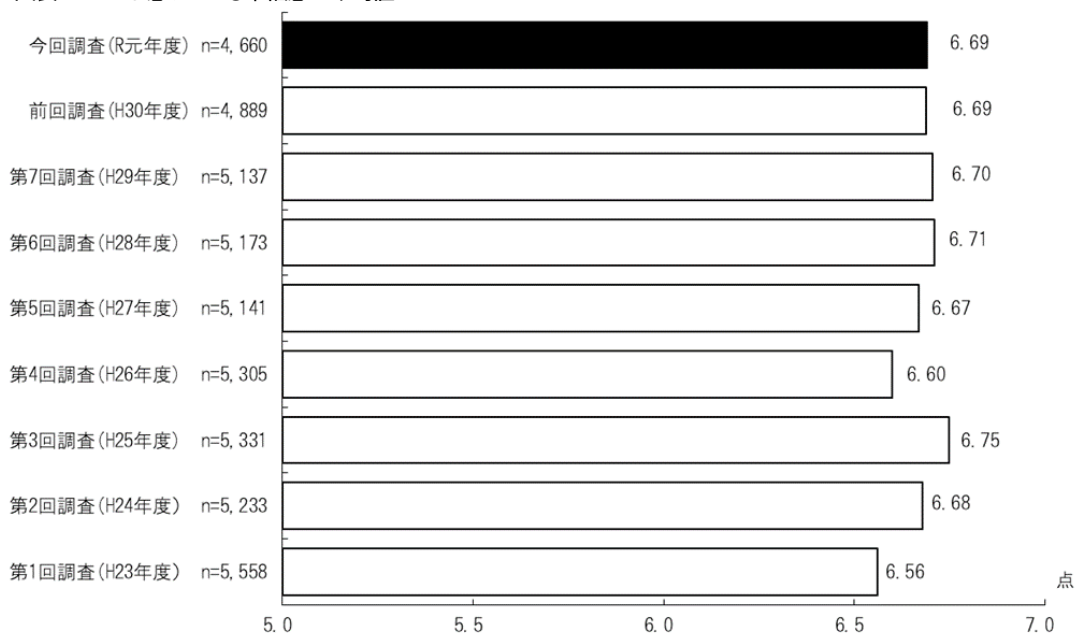
問1-1 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。

※第1回調査から継続して質問しています。

県民の皆さんが日ごろ感じている幸福感（以下「幸福感」と記載）について10点満点で質問したところ、**平均値は6.69点で、前回調査と同じ値になり、第1回調査より0.13点高くなっています。**

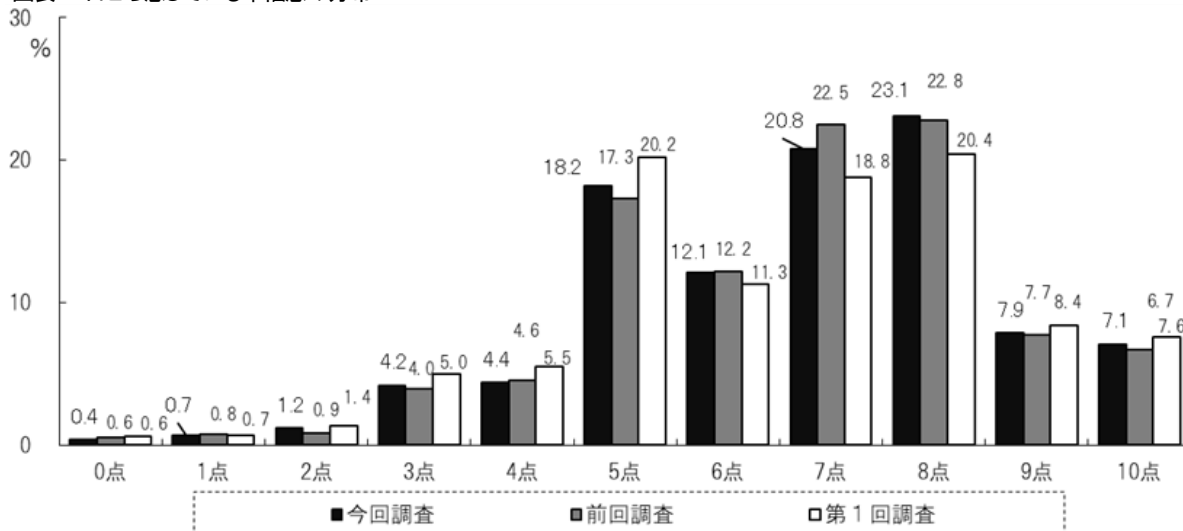
点数の分布をみると、「8点」の割合が23.1%と最も高く、次いで「7点」が20.8%、「5点」が18.2%となっており、M字型となっています。

図表2 日ごろ感じている幸福感の平均値



※ これまでの調査で幸福感が最も高かったのは第3回調査の6.75点で、今回調査は過去4番目の高さとなっています。

図表3 日ごろ感じている幸福感の分布



図表4 日ごろ感じている幸福感の平均値(属性項目別)

	今 回 点	(前回差) ポイント	<第1回差> ポイント
合計	6.69	(0.00)	<0.13>
地域			
北勢	6.74	(-0.04)	<0.10>
伊賀	6.64	(0.02)	<0.13>
中南勢	6.66	(0.00)	<0.12>
伊勢志摩	6.70	(0.13)	<0.29>
東紀州	6.38	(-0.08)	<-0.09>
性別			
男性	6.49	(-0.09)	<0.17>
女性	6.86	(0.01)	<0.06>
年齢			
18歳から20歳代	6.67	(0.00)	<->
30歳代	6.94	(0.08)	<0.09>
40歳代	6.65	(-0.06)	<0.08>
50歳代	6.78	(0.07)	<0.28>
60歳代	6.59	(-0.12)	<0.10>
70歳以上	6.69	(0.05)	<0.14>
主な職業			
農林水産業	6.72	(-0.03)	<0.22>
自営業・自由業	6.72	(-0.08)	<0.07>
正規職員	6.77	(-0.08)	<0.08>
パート・バイト・派遣	6.71	(0.10)	<0.32>
その他の職業	6.76	(0.13)	<0.09>
学生	7.30	(0.05)	<0.72>
専業主婦・主夫	7.01	(-0.18)	<-0.03>
無職	6.36	(-0.02)	<0.13>
配偶関係			
未婚	6.10	(0.19)	<0.33>
有配偶	6.89	(-0.01)	<0.11>
離別・死別	6.32	(0.05)	<0.22>
世帯類型			
単独世帯	6.01	(-0.20)	<0.02>
一世代世帯	6.90	(0.06)	<0.16>
二世帯世帯	6.69	(-0.02)	<0.19>
三世帯世帯	6.98	(0.04)	<0.16>
世帯収入			
100万円未満	5.90	(0.04)	<->
~200万円未満	6.05	(0.01)	<->
~300万円未満	6.41	(-0.02)	<->
~400万円未満	6.59	(-0.09)	<->
~500万円未満	6.83	(0.01)	<->
~600万円未満	6.85	(-0.05)	<->
~800万円未満	7.06	(0.02)	<->
~1,000万円未満	7.38	(0.13)	<->
1,000万円以上	7.33	(-0.21)	<->

※年齢の18歳から20歳代については、第6回調査からの調査項目であるため、第1回調査と比較を行っていません。

※世帯収入については、第1回調査と収入区分が同一でないことから、比較を行っていません。

(2) 幸福感を判断する際に重視した事項

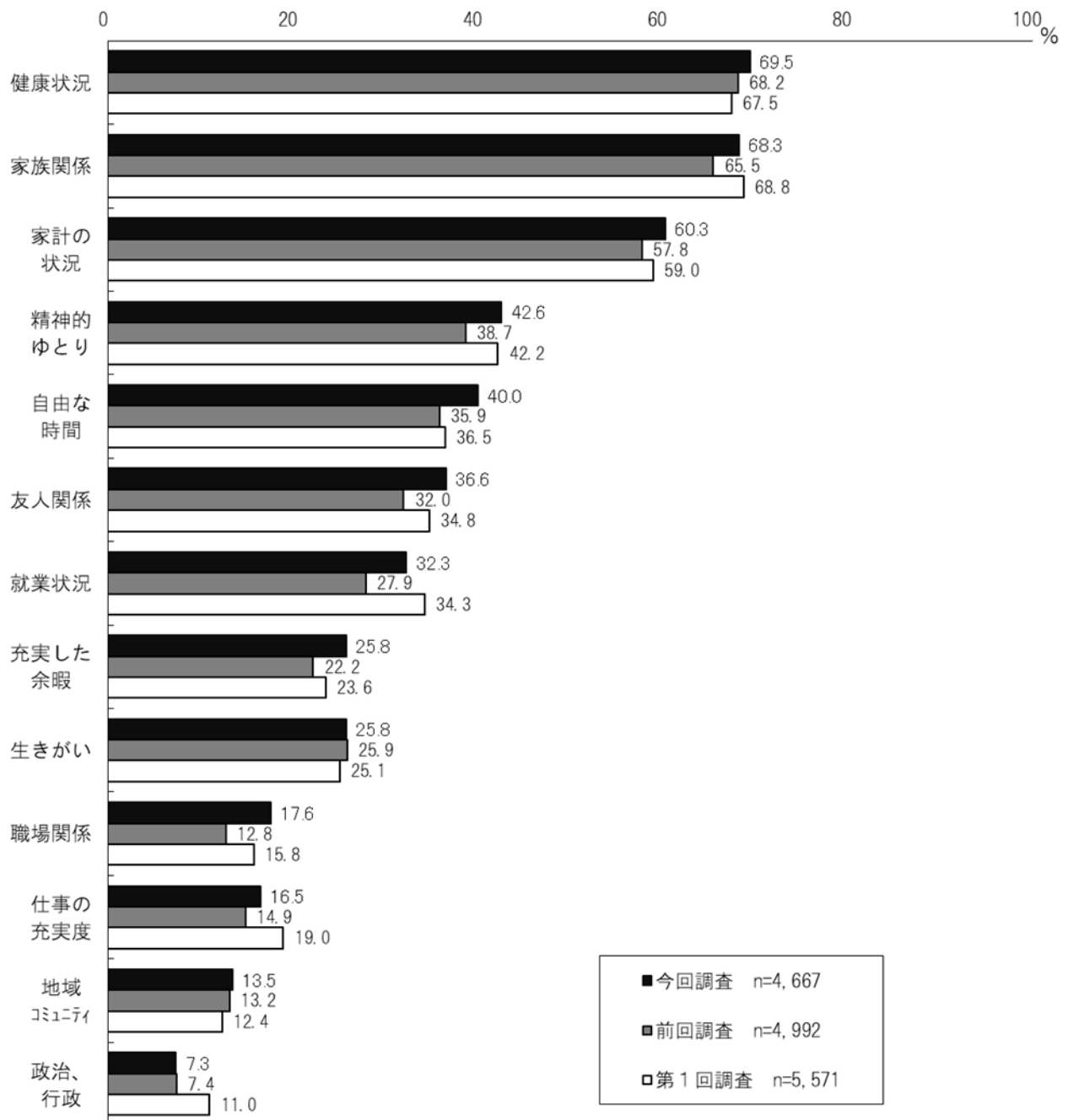
問1-2 幸福感を判断する際に、重視した事項は何ですか。

※第1回調査から継続して質問しています。

幸福感を判断する際に重視した事項は、「健康状況」の割合が69.5%で最も高く、次いで「家族関係」(68.3%)、「家計の状況」(60.3%)となっています。

割合が最も高かった事項は、第4回調査、第5回調査、第8回調査では今回と同様に「健康状況」、それ以外の調査では「家族関係」となっています。

図表5 幸福感を判断する際に重視した事項[複数回答]



(3) 幸福感を高める手立て

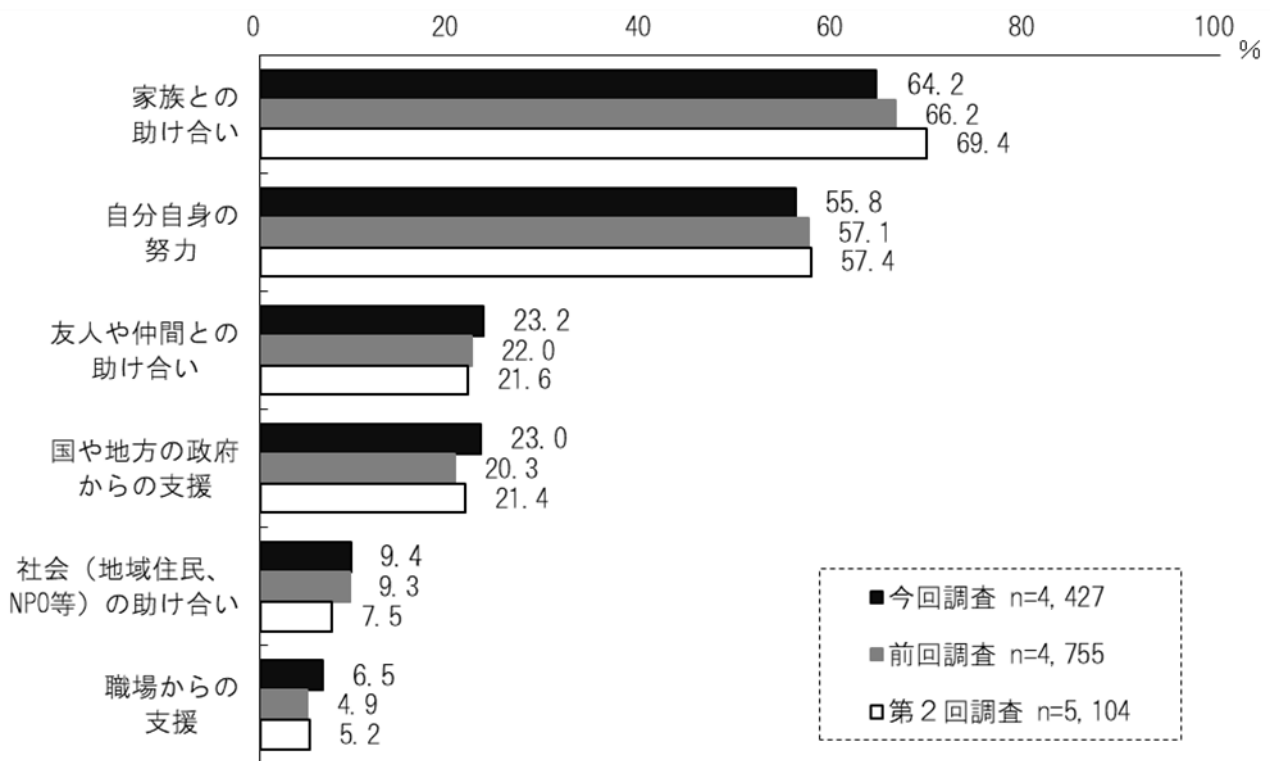
問1-3 あなたの幸福感を高めるために有効な手立ては何ですか。

※第2回調査から継続して質問しています。

幸福感を高める手立てについては、「家族との助け合い」が 64.2%で最も高く、次いで、「自分自身の努力」(55.8%)、「友人や仲間との助け合い」(23.2%) となっています。

前回調査との比較では、「国や地方の政府からの支援」が2.7ポイント、「職場からの支援」が1.6ポイント、「友人や仲間との助け合い」が1.2ポイント、「社会（地域住民、NPO等）の助け合い」が0.1ポイントそれぞれ高く、「家族との助け合い」が2.0ポイント、「自分自身の努力」が1.3ポイントそれぞれ低くなっています。

図表6 幸福感を高める手立て[2つまでの複数回答]



2 地域や社会の状況についての実感

報告書 13～45 頁

「地域や社会の状況についての実感」は、平成 24 年度に策定した「みえ県民力ビジョン」で政策分野ごとに設定した 15 の「幸福実感指標」に対応した質問となっています。

「幸福実感指標」は、県民の皆さん一人ひとりが生活している中で感じる政策分野ごとの実感の推移を調べ、全体としての幸福実感を把握するための指標です。

問2 地域や社会の状況について、あなたの実感をおききします。

次の(1)から(15)までの15の質問それぞれについて、あなたの実感にもっとも近いものを1つだけ選んでください。

- (1) 災害の危機への備えが進んでいると感じますか。
- (2) 必要な医療サービスを利用できていると感じますか。
- (3) 必要な福祉サービスを利用できていると感じますか。
- (4) 犯罪や事故が少なく、安全に暮らしていると感じますか。
- (5) 身近な自然や環境が守られていると感じますか。 (第5回調査で質問を変更)
- (6) 性別や年齢、障がいの有無、国籍などにとらわれず、誰もが社会に参画できていると感じますか。 (第5回調査で質問を変更)
- (7) 子どものためになる教育が行われていると感じますか。
- (8) 結婚・妊娠・子育てなどの希望がかなっていないと感じますか。
(今回調査で質問を変更)
- (9) スポーツをしたり、みたり、支えたりする環境や機会が整っていると感じますか。
(第5回調査で質問を変更)
- (10) 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じますか。
- (11) 三重県産の農林水産物を買いたいと感じますか。
- (12) 県内の産業活動が活発であると感じますか。
- (13) 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいると感じますか。
- (14) 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ていると感じますか。
- (15) 道路や公共交通機関等が整っていると感じますか。

○ 選択肢はいずれの質問も下記の通りです。

1 感じる 2 どちらかといえば感じる

3 どちらかといえば感じない 4 感じない 5 わからない

※(5)(6)(8)(9)を除き、第1回調査から継続して質問しています

○『実感している層』の割合

地域や社会の状況についての実感をおききしたところ、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した『実感している層』の割合は、「(11)三重県産の農林水産物を買いたい」が87.3%で最も高くなっています。次いで「(10)自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」(74.8%)、「(4)犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている」(65.6%)の順で、これまでの9回の調査を通じて同順位となっています。

○『実感していない層』の割合

「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した『実感していない層』の割合は「(14)働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている」が61.9%で、第1回調査以降、継続して最も高くなっています。次いで、「(15)道路や公共交通機関等が整っている」(56.0%)、「(1)災害の危機への備えが進んでいる」(54.9%)の順となっています。

○前回調査との比較

前回調査より『実感している層』の割合が高くなったのは、14項目のうち7項目で、増加幅が大きかったのは「(6)性別や年齢、障がいの有無、国籍などにとらわれず、誰もが社会に参画できている」(+2.9ポイント)、「(13)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる」(+2.3ポイント)、「(1)災害の危機への備えが進んでいる」(+1.8ポイント)となっています。

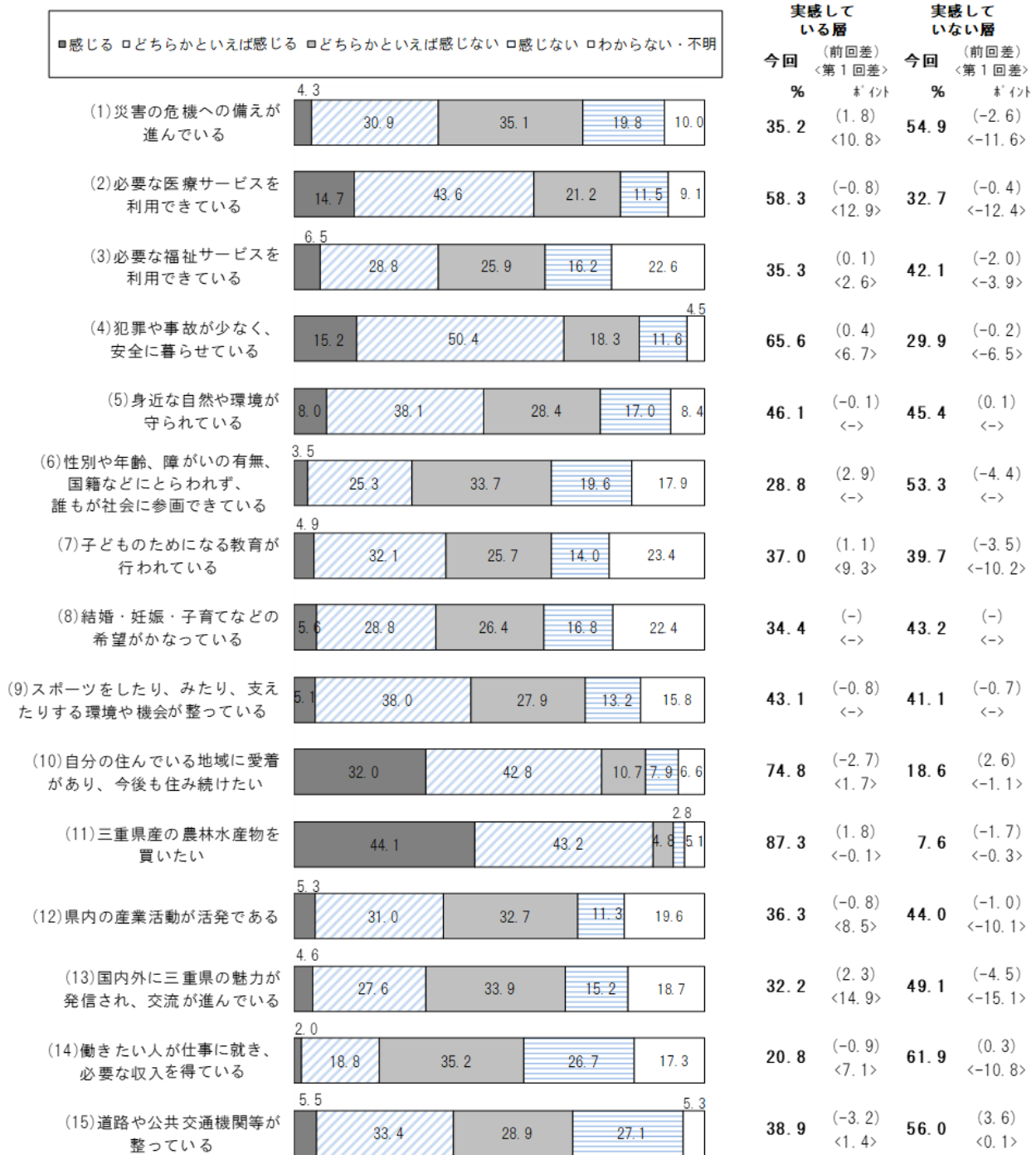
一方、『実感していない層』の割合が高くなったのは4項目で、主なものは「(15)道路や公共交通機関等が整っている」(+3.6ポイント)となっています。

○第1回調査との比較

第1回調査から質問内容を変えずに継続的におききしている11項目のうち、第1回調査より『実感している層』の割合が高くなったのは10項目で、増加幅が最も大きかったのは「(13)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる」(+14.9ポイント)次いで、「(2)必要な医療サービスを利用できている」(+12.9ポイント)、「(1)災害の危機への備えが進んでいる」(+10.8ポイント)、「(7)子どものためになる教育が行われている」(+9.3ポイント)となっています。

一方、『実感していない層』の割合は、「(15)道路や公共交通機関等が整っている」(+0.1ポイント)を除く10項目で第1回調査より低くなっています。

図表7 地域や社会の状況についての実感（一覧）



※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数第二位で四捨五入した数値の合計
 ※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数第二位で四捨五入した数値の合計
 ※割合は、「わからない」や「不明（未回答など）」も分母に含めて算出
 ※第5回調査以降で質問を変更したものは、第1回調査と比較していない

3 SDGs、Society 5.0について

問13 あなたは、SDGs（エスディーズ）という言葉を知っていますか。（〇は1つだけ）

➤ SDGsの認知度

- 回答者の認知度は、「よく知っている」が3.3%、「少し知っている」が6.2%、「聞いたことがある」が12.9%、「知らない」が77.6%となっています。

図表8 SDGsの認知度

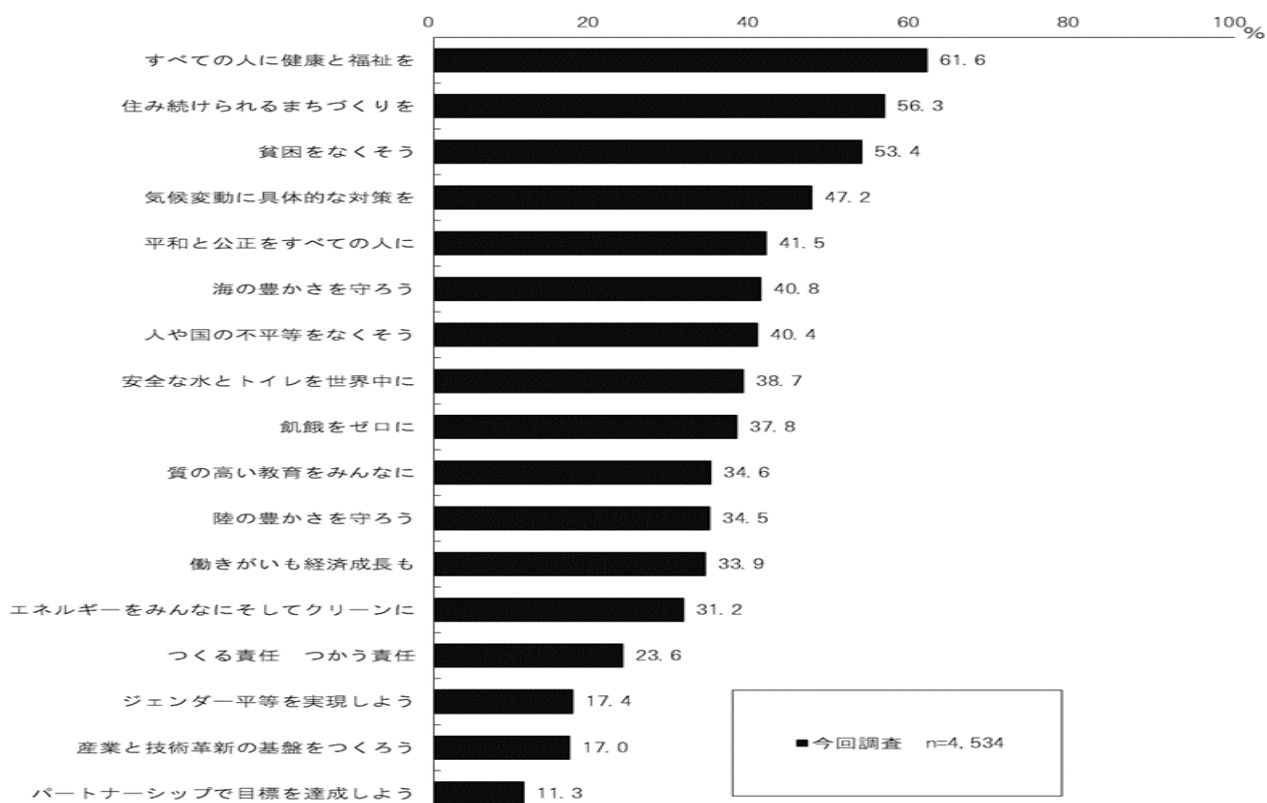


問14 あなたはSDGsの17の目標のうち、どの目標の効果に期待しますか。

➤ SDGsの目標の効果への期待

- SDGsの目標のうち、どの目標の効果に期待するか質問したところ、「すべての人に健康と福祉を」が61.6%と最も高く、次いで「住み続けられるまちづくりを」(56.3%)、「貧困をなくそう」(53.4%)となっています。

図表9 SDGsの目標の効果への期待[複数回答]



問15 あなたは、Society 5.0（ソサエティ 5.0）という言葉を知っていますか。

➤ Society 5.0 の認知度

○ 回答者の認知度は、「よく知っている」が1.1%、「少し知っている」が3.9%、「聞いたことがある」が11.0%、「知らない」が84.1%となっています。

図表10 Society 5.0 の認知度

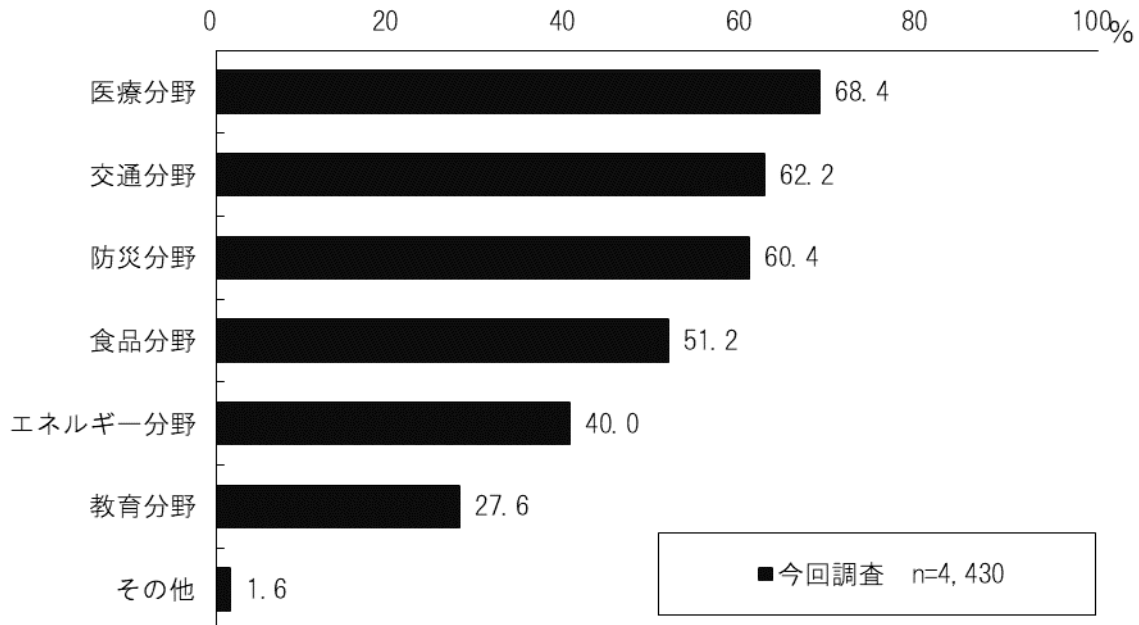


問16 あなたが、Society 5.0 の実現に期待する分野をすべて選んでください。

➤ Society 5.0 の実現を期待する分野

○ Society 5.0 の実現を期待する分野について質問したところ、医療分野が68.4%と最も高く、次いで交通分野（62.2%）、防災分野（60.4%）となっています。

図表11 Society 5.0 の実現を期待する分野[複数回答]



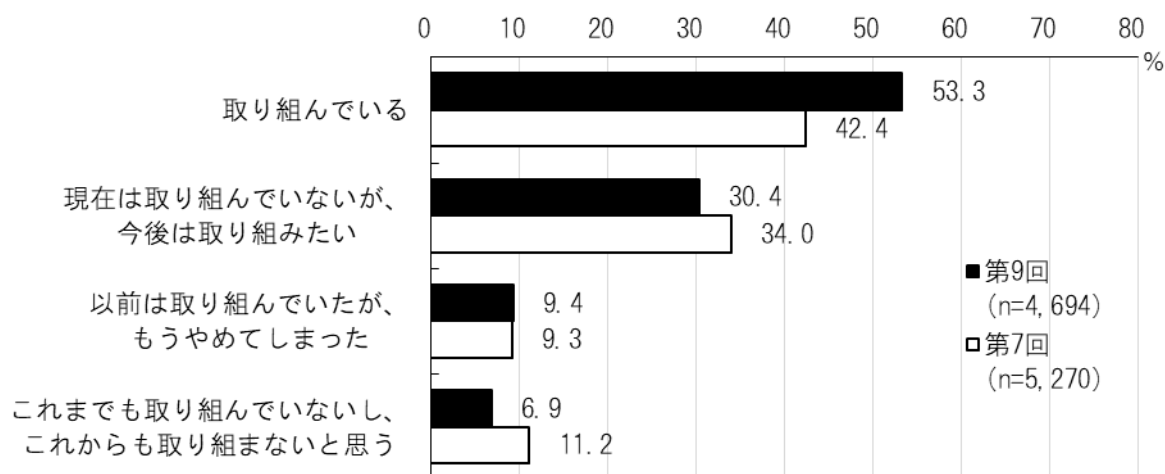
4 健康づくりに関すること

問17 あなたは、健康づくりに取り組んでいますか。

➤ 健康づくりへの取組

- 健康づくりへの取組状況を質問したところ、「取り組んでいる」が53.3%と最も高く、次いで「現在は取り組んでいないが、今後は取り組みたい」(30.4%)、「以前は取り組んでいたが、もうやめてしまった」(9.4%)の順となっています。第7回調査と比較すると「取り組んでいる」が10.9ポイント高くなっています。

図表12 健康づくりへの取組

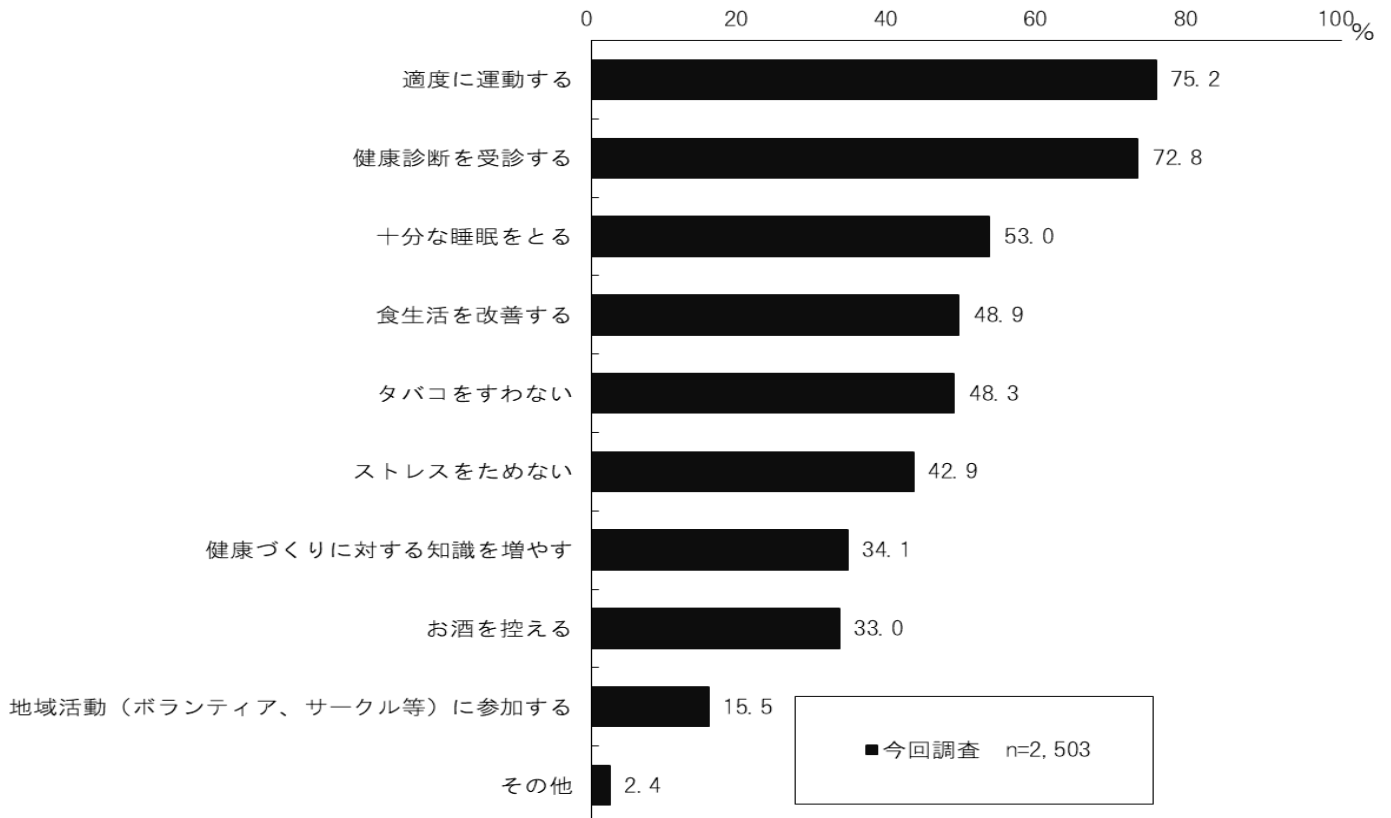


問18 あなたは、どのような健康づくりに取り組んでいますか。

➤ 健康づくりの取組内容

- 健康づくりに取り組んでいる方にどのような健康づくりに取り組んでいるかを質問したところ、「適度に運動する」が75.2%と最も高く、次いで「健康診断を受診する」(72.8%)、「十分な睡眠をとる」(53.0%)の順となっています。

図表13 健康づくりの取組内容[複数回答]

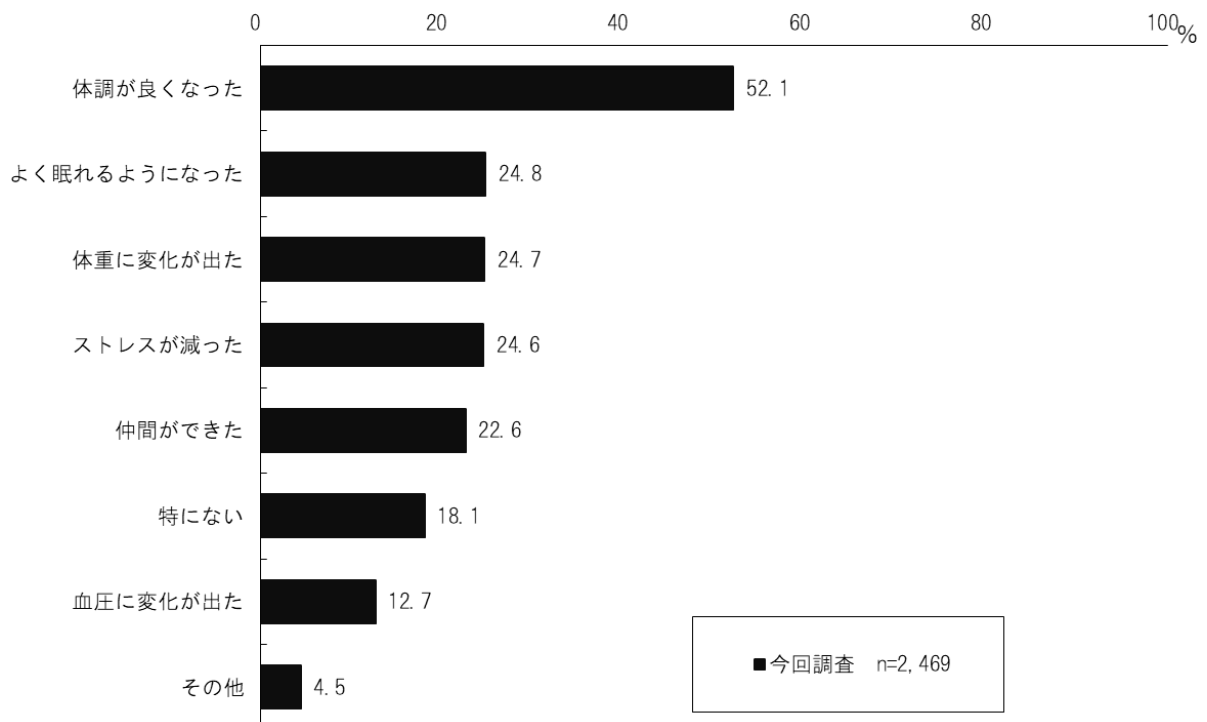


問19 あなたは、健康づくりに取り組んだ結果、どのようになりましたか。

➤ **健康づくりに取り組んだ結果**

- 健康づくりに取り組んでいる方に、健康づくりに取り組んだ結果、どのようになったかを質問したところ、「体調が良くなった」の割合が52.1%と最も高く、次いで「よく眠れるようになった」(24.8%)、「体重に変化が出た」(24.7%)の順となっています。

図表 14 健康づくりに取り組んだ結果〔複数回答〕

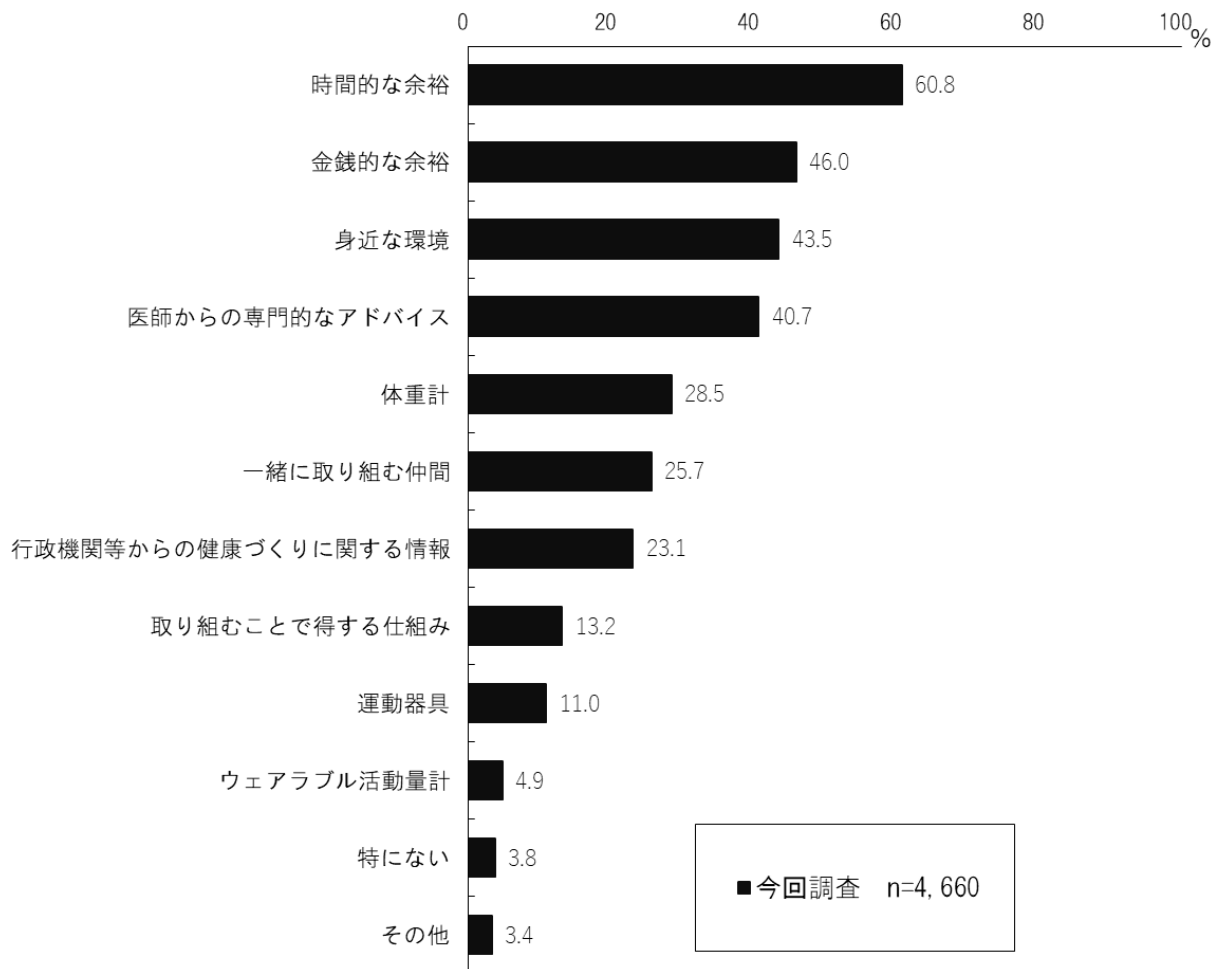


問20 あなたが健康づくりに取り組むために、欠かせないと思うものは何ですか。

➤ **健康づくりへの取組に欠かせないもの**

○ 健康づくりへの取組に欠かせないものを質問したところ、「時間的な余裕」が60.8%と最も高く、次いで「金銭的な余裕」(46.0%)、「身近な環境」(43.5%)の順となっています。

図表 15 健康づくりへの取組に欠かせないもの〔複数回答〕



5 ご家族に関すること

報告書 89～97 頁

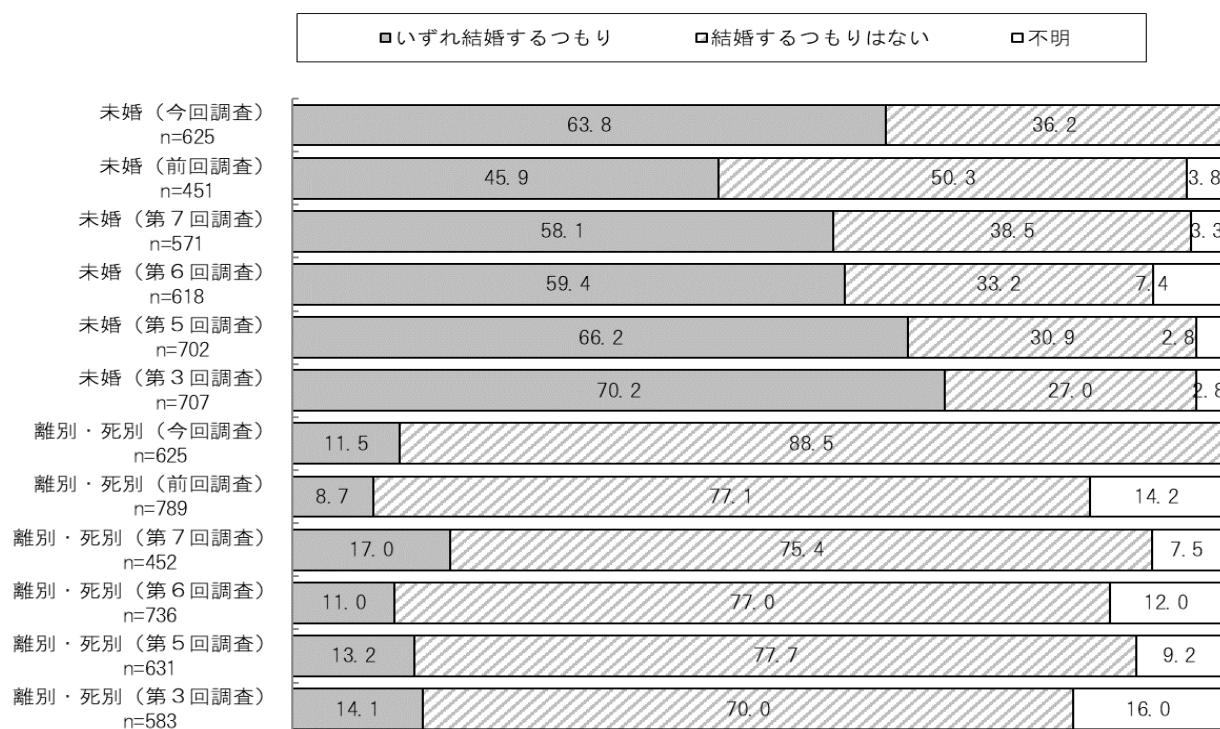
(1) 結婚に対する考え方

問22 今後の人生を通して考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。

※第3回、第5～8回、今回調査で質問しています。

- 未婚の方または離別・死別した方に対して、結婚に対する考え方を質問したところ、未婚は「いずれ結婚するつもり」が63.8%、「結婚するつもりはない」が36.2%となっています。離別・死別は「いずれ結婚するつもり」が11.5%、「結婚するつもりはない」が88.5%となっています。

図表 16 結婚に対する考え方



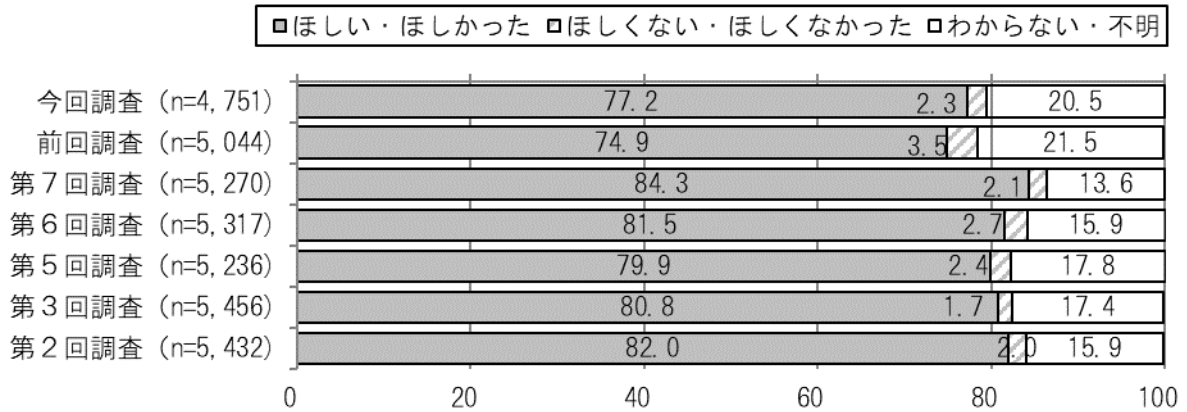
(2) 子どもを希望する割合

問23 あなたは子どもを何人くらいほしいですか。あるいはほしかったですか。

※第2回、第3回、第5回～8回、今回調査で質問しています。

- 子どもを希望を質問したところ、「子どもがほしい・ほしかった」の割合は77.2%で、前回調査より2.3ポイント高くなっています。

図表17 子どもを希望する割合



- 理想の子どもの数について、「2人」の割合が46.7%で最も高く、次いで「3人」(41.9%)となっています。前回調査と比較すると「3人」、「4人」の割合はそれぞれ高くなっています。理想の子どもの数の平均は2.5人で、前回調査より0.1ポイント高くなっています。

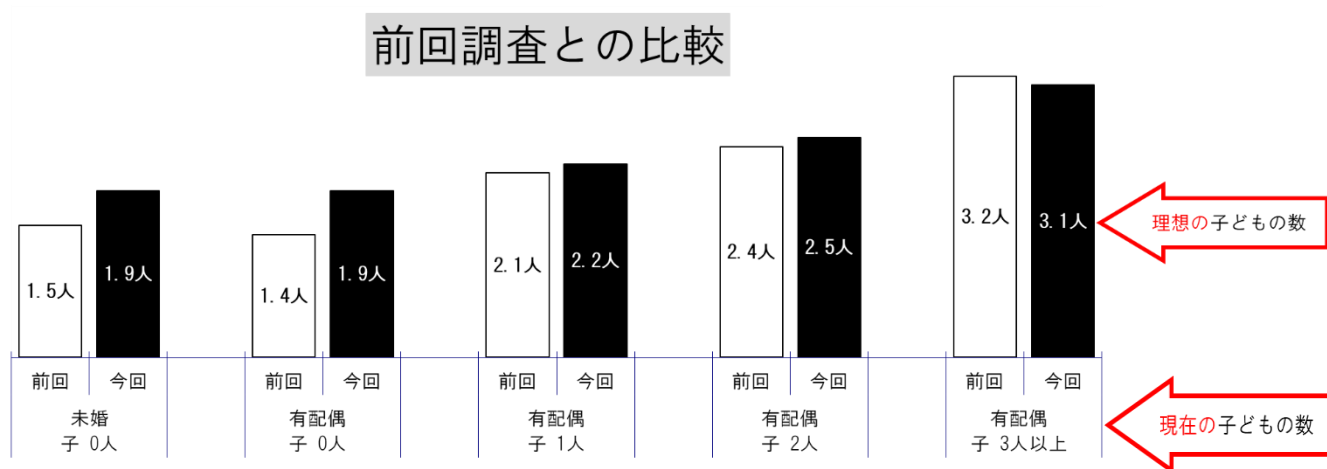
図表18 理想の子どもの数の推移



(3) 子どもの数の理想と現実のギャップ (参考集計)

- 20歳代～40歳代を対象に実際の子どもの数と理想の子どもの数の関係を見たところ、理想の子どもの数は、未婚で子どもがいない層は1.9人、有配偶で子どもがいない層は1.9人、有配偶で子ども1人の層は2.2人、有配偶で子ども2人の層は2.5人、有配偶で子ども3人以上の層は3.1人で、実際の子どもの数は理想の数より少なく、前回調査と同様の結果となっています。
- 前回調査と比べると、理想の子どもの数は、未婚で子どもがいない層で0.4人、有配偶で子どもがいない層で0.5人、有配偶で子ども1人、有配偶で子ども2人の層で、それぞれ0.1人ずつ増加しており、有配偶で子ども3人以上の層で0.1人減少しています。

図表 19 理想の子どもの数



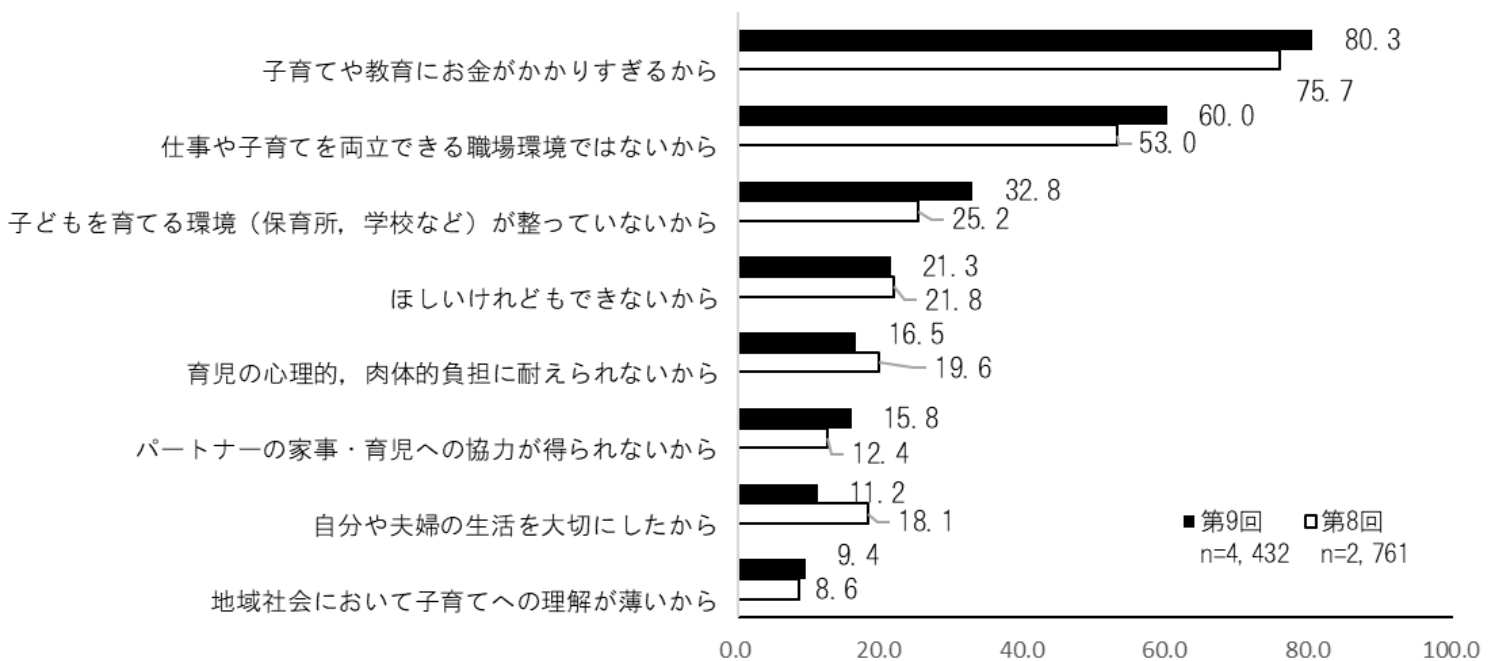
(4) 理想と現実の子どもの数のギャップの理由

問25 これまでの県の調査では、実際の子どもの数は理想の子どもの数より少ないという結果がでています。この理由として、あてはまると思うものをすべて選んでください。

※一部設問を変更しています

- 実際の子どもの数が理想の子どもの数より少ない理由を質問したところ、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」の割合が80.3%と最も高く、次いで「仕事と子育てを両立できる職場環境ではないから」(60.0%)、「子どもを育てる環境（保育所、学校など）が整っていないから」(32.8%)の順となっています。

図表20 子どもの数のギャップの理由[複数回答]



※第8回調査と質問が異なるものは、比較から除いています。